

中医協「第172回総会」

2010/5/30

ドキソルピシン関連の診断群分類、出来高で了承

5月26日の中医協・総会（会長：遠藤久夫・学習院大学経済学部教授）は、DPCにおいて「ドキシル注20mg」（一般名：ドキソルピシン）に関連する5診断群分類（いずれも「120010 卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍」）を次改定までは出来高



評価とすることです。 「ドキシル注20mg」は高額薬剤の対象として出来高評価になった後、2010年度の診療報酬改定から既存の診断群分類の包括評価に設定された。しかし、改定後の検証で、「ドキシル注20mg」使用の有無によって資源投入量に明確な差が認められたため、19日の診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会において、2012年度改定で実態に即した対応をとるまでは出来高算定とする方針が決まっていた（10.05.21「第2回DPC評価分科会」 http://medical-lead.co.jp/documents/100519dpc_001.pdf）。事務局によると、2010年6月1日診療分から適用できるよう手続きを進める。

DPC調査で医療の質を評価

また、2010年度のDPCに関する調査案は、例年同様のDPC導入の影響評価をはじめ、調整係数の廃止に伴う新たな機能評価係数に関する調査、DPCの医療の質の評価に関する調査など5項目の案で了承された。委員からは「DPC調査の決定項目を提示されるだけでは中医協で議論したい情報が得られない」として、調査項目を検討する段階から中医協で議論すべきとの意見が出た。これに対して事務局は「通常は調査の詳細に関してはDPC評価分科会で決定している」と述べた上で、7月から開始する定例の調査には間に合わないが、中医協でその他の調査の必要性を認めた場合は、特別調査として対応する考えを示した。

このほか、DPC準備病院の募集を診療報酬改定年度に合わせて2年ごとに行うことも了承した。今年度は次改定2012年度に対象病院として参加するための準備病院を募集するが、2011年度は募集を行わない。

施設基準の届出状況公表、病院数102施設減

この日の総会で事務局は、2009年7月1日現在における主な施設基準の届出状況等を報告した。病院数は8753施設で前年度から102施設減少し、病院病床数は154万1195床で同じく1万8719床の減少だった。有床診療所は1万555施設（同1039施設減）、13万2871床（同1万1839床減）だった。その他、届出状況の詳細は下記の厚生労働省HPに掲載されている。

「主な施設基準の届出状況等」 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0526-6j.pdf>

「主な選定療養に係る報告状況」 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0526-6k.pdf>

次回の中医協総会の開催予定日は6月2日。

2010年度改定結果検証は患者調査に重点

総会に続いて開催した中医協・第28回診療報酬改定結果検証部会（部会長：牛丸聡・早稲田大学政治経済学術院教授）では、2008年度改定の結果検証特別調査（2009年度調査分）の報告と2010年度改定の結果検証特別調査案（2010年度調査分）の検討を行った。2010年度調査は、改定の基本方針及び答申に当たっての中医協の附帯意見に基づいて下記の5項目を実施する案でまとまった。

救急医療等の充実・強化のための見直しの影響調査
外来管理加算の要件見直し及び地域医療貢献加算創設の影響調査
歯科技工加算創設の影響調査
後発医薬品の使用状況調査
明細書発行原則義務化後の実施状況調査

上記 以外の4項目に対しては、中医協委員からの要望を踏まえ、患者への説明状況や患者の理解度に重点を置いて調査の詳細内容を設定する。

委員からは「後発医薬品の使用状況調査」について、2009年度調査で処方医の約7割が「後発医薬品への変更不可」欄に署名していないにもかかわらず薬局での後発医薬品への変更調剤は1割未満だったことに対し、「後発医薬品への切り替えが進まない背景をより詳しく調査するような項目立てにし、原因究明するべき」などの意見が出た。

検証部会は、次回の総会で項目案が了承され次第特別調査に着手し、2011年2～3月に調査結果を取りまとめる。後発医薬品調査のみ2010年中に調査結果の速報を報告する予定。